

# 滋賀バイオ産業推進機構 平成20年度 総会

平成20年(2008年)6月19日(木)15:00～  
大津プリンスホテル コンベンションホール「淡海」

## 1. 挨拶

## 2. 議事

議案第1号(報告事項):役員等の選任について ……P1

議案第2号(承認事項):平成19年度事業報告および収支決算について …P5

議案第3号(報告事項):平成20年度事業計画および収支予算について …P9

## 3. 講演会

### (1) 基調講演

「関西におけるバイオ産業の振興

～産業クラスター計画「関西バイオクラスタープロジェクト」の現状と今後～

講師:近畿経済産業局地域経済部バイオインダストリー振興室長

佐々木 朱実 氏

### (2) 事業紹介

①「生命科学部・薬学部の設置と今後について」

立命館大学 生命科学部 学部長 谷口 吉弘 氏

②「長浜バイオインキュベーションセンター事業概要および入居企業」

長浜バイオインキュベーションセンター インキュベーションマネージャー 武内 啓一 氏

③「都市エリア産学官連携促進事業(医工連携ものづくり)」

(財)滋賀県産業支援プラザ 技術総括 山本 和好 氏

○交流会(ホテル2階 “比叡”)

:17:30-19:00

## 議案第1号

### 役員を選任について

次のとおり、所属組織の人事異動がありました理事について、規約第9条の規定により、理事会にて理事を選任し、同じく規約第9条の規定により、理事の中から互選により副理事長を選任しましたので、報告します。

#### 1. 新たに選任した理事

区分	所属、役職等	氏名	選任年月日
副理事長	滋賀県商工観光労働部長	瀬古 良勝	平成20年4月1日

### 部会運営委員の選任について

また、同じく所属組織の人事異動により、部会運営委員について、規約第25条の規定に基づき、理事長により次のとおり選任しましたので、併せて報告します。

#### 2. 新たに選任した部会運営委員

区分	所属、役職等	氏名	選任年月日
産業化推進部会	滋賀県東北部工業技術センター所長	河村 安太郎	平成20年4月1日
産業化推進部会	(財)滋賀県産業支援プラザ新事業支援部部長	神本 正	平成20年4月1日
普及啓発部会	滋賀県農業技術振興センター所長	大谷 博実	平成20年4月1日

## 滋賀バイオ産業推進機構 役員

任期:平成19年4月1日～平成21年3月31日

区分	所属、役職等	氏名	備考
会長	滋賀県知事	嘉田 由紀子	
副会長	奈良先端科学技術大学院大学名誉教授	山田 康之	
理事長	石川県立大学生物資源工学研究所教授	熊谷 英彦	
副理事長	滋賀県商工観光労働部長	瀬古 良勝	*変更 (旧:沢井進一)
理事	洛東化成工業(株)代表取締役社長	川畑 悟郎	
理事	滋賀医科大学生化学・分子生物学講座教授	大久保 岩男	
理事	長浜市副市長	加藤 誠一	
理事	(株)I. S. T 代表取締役社長	阪根 信一	
理事	慶應義塾大学名誉教授	清水 信義	
理事	長浜バイオ大学学長	下西 康嗣	
理事	(財)サントリー生物有機科学研究所副理事長	田中 隆治	
理事	立命館大学生命科学部学部長	谷口 吉弘	
理事	滋賀県立大学環境科学部生物資源管理学科教授	長谷川 博	
理事	(社)滋賀経済産業協会会長	廣瀬 一輝	
理事	特定医療法人社団御上会野洲病院理事長	福井 淳博	
理事	有限責任中間法人バイオビジネス創出研究会 代表理事	森 建司	
監事	関西電力(株)滋賀支店長	清水 徹	
監事	(株)滋賀銀行常務取締役	安居 幸一郎	

## 顧問

区分	所属、役職等	氏名	備考
顧問	NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議 相談役	秋吉 節	

## 滋賀バイオ産業推進機構 部会運営委員

任期:平成19年4月1日～平成21年3月31日

区分	所属、役職等	氏名	備考
産業化推進部会運営委員長	有限責任中間法人バイオビジネス創出研究会 代表理事	森 建司	
産業化推進部会副運営委員長	立命館大学生命科学部生物工学科教授	久保 幹	
産業化推進部会運営委員	(株)ノエビア 知財・品質保証部 担当部長	大原 登	
産業化推進部会運営委員	滋賀県東北部工業技術センター所長	河村 安太郎	*変更 (旧:西内廣志)
産業化推進部会運営委員	(財)滋賀県産業支援プラザ新事業支援部部長	神本 正	*変更 (旧:西岡孝幸)
研究技術交流部会運営委員長	長浜バイオ大学学長	下西 康嗣	
研究技術交流部会副運営委員長	(株)東レ経営研究所 特別研究員	大島 桂典	
研究技術交流部会副運営委員長	滋賀県工業技術総合センター所長	中村 吉紀	
研究技術交流部会運営委員	洛東化成工業(株)代表取締役社長	川畑 悟郎	
研究技術交流部会運営委員	(財)滋賀県産業支援プラザ理事	奥山 博信	
研究技術交流部会運営委員	龍谷大学理工学部環境ソリューション工学科准教授	越川 博元	
研究技術交流部会運営委員	(株)I. S. T 代表取締役社長	阪根 信一	
研究技術交流部会運営委員	大塚製薬(株)藤井記念研究所所長	住田 卓美	
研究技術交流部会運営委員	立命館大学生命科学部学部長	谷口 吉弘	
研究技術交流部会運営委員	滋賀医科大学医学部分子神経科学研究センター教授	遠山 育夫	
研究技術交流部会運営委員	長浜バイオ大学バイオサイエンス学部教授	西 義介	
研究技術交流部会運営委員	立命館大学薬学部薬学科教授	藤田 典久	
研究技術交流部会運営委員	京都大学エネルギー理工学研究所教授	吉川 暹	
研究技術交流部会運営委員	立命館大学生命科学部生物工学科教授	若山 守	
研究技術交流部会運営委員	オリエンタル酵母工業(株)長浜事業所 所長	内田 浩二	
研究技術交流部会参与	大阪大学名誉教授	葛西 道生	
研究技術交流部会参与	滋賀県立大学名誉教授	広原 日出男	

区分	所属、役職等	氏名	備考
普及啓発部会運営 委員長	(財) サントリー生物有機科学研究所副理事長	田中 隆治	
普及啓発部会副運 営委員長	滋賀県立大学環境科学部生物資源管理学科教授	長谷川 博	
普及啓発部会運営 委員	長浜バイオ大学バイオサイエンス学部教授	大島 淳	
普及啓発部会運営 委員	滋賀県農業技術振興センター所長	大谷 博実	*変更 (旧:河端祥一)
普及啓発部会運営 委員	JSTイノベーションサテライト滋賀館長	小林 紘士	
普及啓発部会運営 委員	特定医療法人社団御上会野洲病院理事長	福井 淳博	
国際セミナー運営 委員長	長浜バイオ大学学長	下西 康嗣	
国際セミナー運営 委員	滋賀医科大学生化学・分子生物学講座教授	大久保 岩男	
国際セミナー運営 委員	お茶の水女子大学学長	郷 通子	
国際セミナー運営 委員	慶應義塾大学名誉教授	清水 信義	
国際セミナー運営 委員	長浜バイオ大学バイオサイエンス学部教授	西 義介	

## 議案第2号

### 滋賀バイオ産業推進機構 平成19年度事業報告(案)

#### I. 組織の管理運営

##### 1. 理事会等の開催

区分	月日	場所	出席者等
・総会	7月 4日	琵琶湖ホテル	会員58人
・理事会 第1回	7月 4日	琵琶湖ホテル	理事10人、副会長1人、監事2人
第2回	11月20日	北ビワコホテル グラツィエ	理事6人、監事1人
第3回	3月21日	プエルタ大津	理事8人、副会長1人
・産業化推進部会運営委員会 第1回	8月29日	ホテルニューオウミ	委員4人
・研究技術交流部会運営委員会 第1回	7月25日	滋賀医科大学	委員・参与10人
第2回	10月25日	長浜ドーム研修館	委員・参与7人

##### 2. 会員の拡充

会員数(平成20年3月31日現在)

通常会員(企業等)	72者
学術会員(大学・研究機関、学識経験者等)	84者
公益会員(公共団体、公的団体等)	77者 合計233者

#### II. 事業の実施

##### 1. 産学官連携促進事業

###### (1) バイオビジネス基礎セミナー

日時	場所	テーマ等	参加者
8月29日	ホテルニューオウミ	「コア技術を活かしたバイオ産業の創出」 講師) (株)カケンジェネックス、 (株)マルイほか	47人

###### (2) 研究・技術交流会

区分	日時	場所	テーマ等	参加者
第1回	7月25日	滋賀医科大学	「抗体医療とバイオセンサー」 講師) 滋賀医大 吉貴准教授 (株)免疫生物研究所ほか	49人
第2回	10月25日	長浜ドーム研修館	「ニッポンのバイオマス戦略と最新技術」 講師) 九州工業大学大学院 白井教授、(財)地球環境産業技術研究機構ほか	40人
第3回	12月17日	立命館大学びわこ・くさつキャンパス	「創薬最前線と産学連携」 講師) 大阪大学大学院 北教授 (株)ツムラ、日経BP社ほか	45人

## (2) 先進事例見学会

日時	場所	テーマ等	参加者
3月13日	神戸医療産業都市、 白鶴酒造	神戸医療産業都市の現状と伝統発酵技術の現在と未来	25人

## (3) 第4回びわこバイオ国際セミナー

日時	場所	テーマ等	参加者
11月21日	北ビワコホテルグラツィエ	「湖水の生き物に学ぶ ～ゲノムから産業へ～」	112人

## 2. 事業化促進事業

### (1) バイオビジネス展示交流会

日時	場所	テーマ等	参加者
1月25日	北ビワコホテルグラツィエ	「バイオビジネスマッチング in 長浜」	出展35者 125人

### (2) バイオ情報の収集・提供

- 企業訪問等(25社:内 会員 14者、非会員 11者)
- 「滋賀バイオ産業推進機構会員メールマガジン」での情報提供(月2回)
- ホームページでの情報発信など
- セミナー等への参加など

### (3) 県内外への情報発信

区分	日時	場所	備考
BioJapan2007 出展	9月19日 ～21日	パシフィコ横浜	長浜市やバイオビジネス創出研究会と連携し、出展
第10回びわ湖環境 ビジネスメッセ出展	10月24日 ～26日	長浜ドーム	長浜市やバイオビジネス創出研究会と連携し、出展

## 3. 県民普及啓発事業

### (1) 県民啓発シンポジウム等

日時	場所	テーマ等	参加者
2月8日	ピアザ淡海	環境調和型社会と新エネルギー * 滋賀県事業「科学技術理解促進のためのシンポジウム」との共同開催	109人

### (2) 高校生のためのバイオテクノロジー体験セミナー

日時	場所	テーマ等	参加者
12月15日	滋賀県立大学	「ヨシの水質浄化作用とバイオテクノロジー」	11人

平成19年度 滋賀バイオ産業推進機構 収支決算書（案）

【収入の部】

単位：円

区分	当初予算額	補正額	補正後予算額	決算額	差引額	備考
会費収入	1,400,000	20,000	1,420,000	1,420,000	0	会費収入 1,420,000
負担金収入	12,527,000	△ 2,773,000	9,754,000	9,754,500	△ 500	参加費 511,500 県負担金 8,693,000 その他負担金 550,000
雑収入	0	5,000	5,000	4,944	56	利息 4,944
繰越金収入	282,000	0	282,000	282,531	△ 531	平成18年度繰越金 282,531
合 計	14,209,000	△ 2,748,000	11,461,000	11,461,975	△ 975	

【支出の部】

単位：円

区分	当初予算額	補正額	補正後予算額	決算額	差引額	備考
管理費	3,717,000	△ 508,000	3,209,000	3,092,774	116,226	理事会費 476,782 総会・記念講演会費 450,117 部会運営委員会等費 71,780 事務局運営費 2,094,095
事業費	10,492,000	△ 2,240,000	8,252,000	8,152,492	99,508	産学官連携促進事業費 4,364,067 事業化促進事業費 3,322,044 普及啓発事業費 466,381
合 計	14,209,000	△ 2,748,000	11,461,000	11,245,266	215,734	

収入－支出 = 216,709 円 次年度に繰越




# 監 査 報 告 書

滋賀バイオ産業推進機構決算書について、平成20年5月27日に  
関係書類等を監査した結果、適正かつ正確に処理されていたことを認  
めます。

平成20年5月27日

監事 清水徹 

監事 安居幸一郎 

## 議案第3号

### 平成20年度事業計画

滋賀バイオ産業推進機構は、平成18年2月の設立以来、びわこバイオステージ構想に基づき、人材育成、情報提供、産学官連携促進の場づくりを中心にバイオ産業の振興に向けて取り組んできた。また、県の経済振興特区、長浜バイオネットワークとも連携し、長浜を一つの拠点として県全体のバイオ振興を図っている。

こうした中、長浜地域では、平成19年4月に長浜バイオ大学大学院の開学や長浜バイオインキュベーションセンターでの事業化の進展、びわこ南部地域では、医工連携ものづくりクラスターの形成に向けた文部科学省「都市エリア産学官連携促進事業（発展型）」の採択、平成20年4月には立命館大学生命科学部・薬学部の開学されるなど、大学等の研究機能の充実や産学官連携での産業振興の進展などが見られつつある。

これらの状況を踏まえ、平成20年度においては、地域企業と大学等研究機関、インキュベーション施設・入居企業との一層の連携促進、滋賀のバイオビジネス情報の発信充実を進め、ビジネス創出や販路開拓などの、より事業化に向けた取り組みを、滋賀県、（財）滋賀県産業支援プラザ、近畿バイオインダストリー振興会議等、県内外の関係組織と連携を図りつつ、効果的効率的に進めることとする。

#### I. 組織の管理運営

##### 1. 理事会等の開催

当機構の運営方針、事業計画・事業報告、収支予算・決算等必要な事項を審議・決定し、事業の企画・運営等を行うため、各種会議を開催する。

- ・総会（年1回開催予定：6月頃）
- ・理事会（年2回予定：6月、3月頃）
- ・部会運営委員会等（随時）

##### 2. 会員の拡充と相互交流の促進

県内のバイオ関係者の幅広い関係者の参画を得、事業を充実するため、会員の勧誘に努めるとともに、会員の研究、事業等に関する情報を整理し会員相互の交流に資する。

#### II. 事業の実施

##### 1. 産学官連携促進事業

###### (1) 研究技術交流会

大学等研究者と企業、公設試との交流による共同研究の立ち上げ、事業化を目指し、最新のバイオテクノロジーに関する情報や大学等のシーズに関する情報提供、交流・意見交換の場を提供するため、セミナー・交流会を行う。（3回）

## 2. 産業化促進事業

### (1) バイオビジネス2008 in びわ湖

「びわ湖環境ビジネスメッセ」と連携し、県内外から、バイオベンチャーをはじめとするバイオ関連企業や大学等研究機関、産業振興団体に幅広い参加を求め、滋賀県から、全国に向けて最新のバイオビジネスの情報発信、関係者の交流の場とする。

#### ① ビジネス・プレゼンテーション&展示交流会

ビジネスパートナーを求めるバイオベンチャーや大学等研究者等を対象に、ビジネスプレゼンテーションと技術や商品の展示を行い、B to Bを重視したイベントを開催する。

#### ② バイオビジネス基礎セミナー

一般の中小企業者等を対象に、バイオ産業への参入を促進するため、バイオテクノロジーや市場の動向などに関する情報提供するためのセミナーを行う。

#### ③ びわこバイオフォーラム

地域発のバイオ産業創出に繋げるため、滋賀で研究開発、事業化が期待できるバイオテクノロジーやビジネスについて、バイオ関連企業や研究者、バイオ産業創出に取り組む団体等関係者などを講師に迎え、講演会を開催する。

### (2) 情報収集・発信事業

会員企業や機関等の研究開発、ビジネス活動の状況を訪問やセミナーへの参加等により収集・整理するとともに、会員に関する情報や補助金等の支援策の情報を、ホームページや会員メール等により情報発信を行う。

会員企業やインキュベーション施設入居ベンチャー等の販路開拓等を促進するとともに、企業立地にも資するため、展示会等への参加により、滋賀からの情報発信を行う。(随時)

## 3. 県民普及啓発事業

一般県民等を対象に、バイオテクノロジーに関する正しい理解とその有用性の認識を促進するため、県民啓発シンポジウムを開催する。(1回)

## 4. その他関連事業

本機構の目的を達成するため、関係機関との共催・後援事業の実施、会議、イベント等への参加などを行う。(随時)

## 平成20年度収支予算

### 1 収入の部

単位:千円

区分	予算額	摘要	
会費収入	1,440	会費(通常会員 20千円×72会員)	1,440
負担金収入	7,215	参加負担金、その他負担金	515
		県負担金	6,700
前年度繰越金	216		216
合計	8,871		

### 2 支出の部

単位:千円

区分	予算額	摘要	
管理費	3,507	会議費	1,338
		総会、理事会、部会運営委員会等	
		事務費	2,169
事業費	5,364	産学官連携促進事業	683
		研究技術交流会	
		産業化促進事業	4,366
		バイオビジネス2008 in びわ湖	
		ビジネスプレゼンテーション&展示交流会(2,760)	
		バイオビジネス基礎セミナー(160)	
		びわこバイオフォーラム(491)	
		情報収集・発信事業(955)	
		普及啓発事業	315
		県民啓発シンポジウム	
合計	8,871		

~MEMO~

## 「バイオビジネス 2008 in びわ湖」開催（案）について

### 1. 開催目的:

- (1) 中小企業にバイオテクノロジーを幅広く理解してもらい、自社製品へのバイオテクノロジーの応用や、バイオ関連産業への参入を促す。
- (2) 既に事業化に取り組んでいるバイオベンチャー・バイオ関連企業にビジネスチャンスにつながる場を提供するとともに、県内企業との連携による新たな事業の創出を目指す。また、大学のシーズ情報を提供し、産学連携による研究開発・事業化を促す。
- (3) 滋賀から、最新のバイオ関連産業の情報発信を行う。

### 2. 開催テーマ:

バイオテクノロジーによる環境・健康産業への挑戦～

### 3. 日程:

2008年11月5日（水）～7日（金）の3日間

### 4. 会場:

長浜ドーム研修館（6日～7日）

\*セミナー&プレゼン会場：セミナールーム（約50名）

\*展示会場：エントランスホール（出展予定者数：17者）

長浜バイオ大学（5日）

\*講演会のみ開催

### 5. 事業内容:

#### (1) 5日：びわこバイオフォーラム（シンポジウム）

- ・ 会場：長浜バイオ大学 大講義室2
- ・ 定員：200名
- ・ 参加者：食品・化粧品製造業を中心とした企業関係者・研究者、農業関係者など
- ・ 受講料：無料
- ・ 概要：地域発のバイオ産業創出を目指し、バイオ関連企業や研究者などによる講演やパネルディスカッション等。  
テーマ「(案) 食品成分の機能開発と新産業創出」
- ・ プログラム等：別紙

#### (2) 6日～7日：ビジネスプレゼンテーション&展示会

##### ①展示

- ・ 会場：長浜ドーム研修館
- ・ 概要：県内外のバイオ関連企業・ベンチャー、大学シーズのプレゼンテーションと、商品やパネルの展示を行い、新たな製品開発、販路拡大、商談の場を提供する。併せて、バイオベンチャーと県内企業との連携による新事業の創出を目指す。
- ・ 開場時間：6日 10:00～17:00、7日 10:00～16:00 \*メッセと同じ
- ・ 出展予定者数：各日 17社
- ・ 出展料：出展&プレゼン-2万円（会員は半額）、出展のみ-1万円（会員は半額）
- ・ 出展対象分野：①バイオテクノロジーを活用した環境や健康（医療等を含む）に貢献する技術・商品  
②バイオテクノロジーと“モノづくり”とのコラボレーションによる新ビジネスの創造につながる技術・商品

## ②プレゼンテーション&セミナー

### <6日スケジュール>

- 11:00～12:00 B I Oビジネス戦略セミナー（事業名：基礎セミナー）  
内容：「(仮)食と健康産業の市場動向について」  
\*メタボをはじめとする生活習慣病と機能性食品等の健康産業の市場動向について  
講師：(予定) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株)  
研究開発第1部 副主任研究員 有元裕美子氏  
参加費：1000円（会員無料）、定員：50名
- 12:00～13:30 ランチョン交流会
- 13:45～14:45 プレゼンテーション @20分×7者

### <7日スケジュール>

- 11:00～12:00 プレゼンテーション @20分×3者  
\*12:00～13:20 ランチョン交流会（6日と出展者が大きく代わる場合実施）
- 13:30～14:30 B I Oバイオビジネス戦略セミナー（事業名：基礎セミナー）  
内容：「(仮) バイオで変わる“ものづくり産業”」  
\*環境やバイオ関係分析計測機器・技術やナノテクノロジーの市場・技術動向について  
講師：(予定) 日経BP社 編集長（バイオ部部長） 橋本宗明氏  
参加費：1000円（会員無料）、定員：50名
- 14:45～16:00 プレゼンテーション @20分×4者（休憩含む）

## 6. 主催等：

主催：滋賀バイオ産業推進機構

共催：長浜バイオネットワーク（滋賀県、長浜市、長浜バイオ大学、バイオビジネス創出研究会、長浜商工会議所）

後援：(予定)近畿経済産業局、(財)バイオインダストリー協会、NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議、(財)滋賀県産業支援プラザ、(社)滋賀経済産業協会、滋賀環境ビジネスメッセ実行委員会

## 7. びわ湖環境ビジネスメッセとの連携：

- ①来場勧誘パンフレット、同時開催セミナーチラシ、当日配布のガイドブックに、「滋賀バイオ2008」同時開催を表示。
- ②メッセ・ホームページでのイベント告知（バナー設置）。
- ③開催当日の誘導看板の設置など

**びわこバイオフィォーラム開催概要(案)**  
**—水を活かし、緑を育み、新しい産業を！—**

1. 開催趣旨：

本フォーラムは、昨年度までの国際セミナーを、より地域と密着した形で行う方針に方向転換し、バイオテクノロジーと滋賀県の地域資源を生かし、新たな地域産業を創出・育成する「水を活かし、緑を育み、新しい産業を！」というキャッチフレーズ・コンセプトのもと、新たにバイオ関連産業への参入を目指す企業等関係者を対象に、最先端の研究開発やバイオビジネスに関する講演を含めたフォーラムを開催することにより、バイオテクノロジーを自社の事業に活かすヒントを得てもらい、本県のバイオ関連産業を振興するものとする。

2. テーマ：

「(仮)食品成分の機能開発と新産業創出」

年々健康志向が高まりつつある我が国において、健康維持や生活習慣病予防、老化防止に、食品素材の持つ新たな生理機能や作用機能が注目されている。

今回のフォーラムでは、食品成分の機能性についての最新の研究・開発や、農産物をはじめとする地域資源を活用し、高機能な食品・化粧品の研究開発を行う企業の実例を紹介し、農・水産資源などの豊富な自然資源を有する滋賀において、産学官連携による地域活性化に繋がる新産業創出の可能性を探ります。

3. 主催等：

(1) 主催：滋賀バイオ産業推進機構

(2) 共催：長浜バイオネットワーク

(滋賀県、長浜市、長浜バイオ大学、有限責任中間法人バイオビジネス創出研究会、長浜商工会議所)

(3) 後援：(予定) 近畿経済産業局、NPO 法人近畿バイオインダストリー振興会議、  
(財) 滋賀県産業支援プラザ、(社) 滋賀経済産業協会、滋賀環境ビジネスメッセ実行委員会

4. 開催日・場所：

(1) 開催日：平成20年11月5日(水)

(2) 時間：13:30～16:40

(3) 場所：長浜バイオ大学 大講義室2 (滋賀県長浜市田村町 1266 番地)

5. 参加対象者・予定人数

(1) 対象者：食品・化粧品製造業を中心とした企業関係者、産業振興関係者、農業関係者ほか

(2) 予定参加者数：200人(関係者含む)

6. 参加料：無料



7. プログラム：

(1) 開催挨拶 13：30～13：40

(2) 基調講演 13：40～14：20 (40分)

講 師：京都大学大学院農学研究科食品生物科学専攻食品分子機能学分野

教授 河田 照雄氏

内 容：\* 調整中：肥満・生活習慣病と食品機能性成分

(3) 講 演 14：20～14：50 (30分)

講 師：中部大学応用生物学部食品栄養科学科 教授 津田 孝範 氏

内 容：\*調整中：植物の色素成分（アントシアニン）の機能性とメタボリック  
シンδροーム予防、アンチエイジング

(4) 企業講演 15：00～15：30 (30分)

講 師：(株)ルバンシュ 代表取締役 千田 和弘 氏

内 容：\*調整中：地域資源（加賀野菜や米の発酵技術）を生かした安心・  
安全な商品（化粧品）開発と産学官連携

(5) 企業講演 15：30～16：00 (30分)

講 師：(株)シードライフテック 代表取締役 落合 孝次 氏

内 容：\*調整中：植物発芽技術による新食品素材の開発と農工商連携によ  
る新ビジネスの創造（発芽大豆粉、発芽種子ポリフェノールなど）

(6) パネルディスカッション 16：00～16：40

座 長：滋賀バイオ産業推進機構 理事長 熊谷 英彦 氏

パネラー：

(1) 河田 照雄 氏（京都大学大学院農学研究科 教授）

(2) 津田 孝範 氏（中部大学応用生物学部食品栄養科学科 教授）

(3) 千田 和弘 氏（(株)ルバンシュ 代表取締役）

(4) 落合 孝次 氏（(株)シードライフテック 代表取締役）

(5) 有元 裕美子氏（三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株) 副主任研究員）

## 県民シンポジウム

### 「環境問題解決における植物バイオテクノロジーの役割」

日時：2008年10月13日（月、休日） 13:00～16:30

場所：滋賀県立大学交流センター

主催：日本育種学会・滋賀県立大学・滋賀バイオ産業推進機構

#### シンポジウムの概要

1) 「環境問題に対する植物遺伝育種学の関わり」 藤村達人（筑波大学）

植物育種学が環境問題解決に果たす役割について、育種学とはなにかを説明した上、どのような場面で育種学は有用かを、講演者のこれまでの研究実績とともに育種学会における環境問題関連の発表例をもとに概説する。

2) 「夢のルビスコー光合成機能を向上させた新植物の可能性」 横田明徳（奈良先端科学技術大学院大学）

光合成が植物生産、地球環境に果たす役割を概説するとともに、炭酸同化の最重要酵素であるルビスコの分子育種に関する研究の現状を紹介する。高機能ルビスコを導入できた植物が利用可能になった時、それが食糧問題や環境問題に与えるインパクトについて科学の夢を語る。

3) 「植物を用いた環境浄化—重金属の除去」 吉原利一（電力中央研究所）

カドミウムや鉛などの重金属を土壌圏から除去するための基礎研究から実用化に向けた技術開発に関する話題を紹介する。すなわち、ファイトレメディエーションに有効な植物の探索、有用な遺伝子の探索の話題から、有用植物の作出方法について説明する。

4) 「バイオエネルギー資源作物の開発と利用」 荒木均（作物研究所）

植物を用いたバイオエネルギー利用の意義を述べるとともに、演者らが取り組んでいるプロジェクト研究について紹介する。この中で、バイオエネルギー利用のための資源植物の品種改良や低コスト生産技術研究を概説するとともに、植物のバイオエネルギー利用の今後について展望する。

5) 「環境問題解決に有用な植物の開発—滋賀県の研究例」 長谷川博（滋賀県立大学）

環境を県政の柱とする滋賀県において、滋賀県農業研究センターや滋賀県立大学で行われている、植物バイオテクノロジーを用いた低インプット適性イネ品種と水生植物の機能開発に関する研究成果を紹介し、実用化に向けた今後の展望を行う。

6) 「総合討論」 司会・長谷川博（滋賀県立大学）

各話題提供者の講演内容について、さらに知識を深めるための質疑応答を行うとともに、提供された話題だけでなく、育種学を必要とする他の環境問題、公共環境改善事業のありかたと環境産業の可能性などについても広く参加者から意見を求め、環境問題解決における植物育種・バイオテクノロジーの役割について新しい展望を開く。

~MEMO~